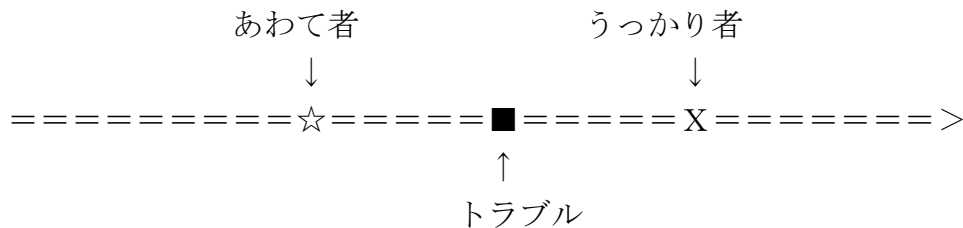


『あわて者の誤り』

トヨタから教わった事に「あわて者の誤り、うっかり者の誤り」という話がある。私自身が「あわて者」という性格もあって興味深く、今も頭に残っている。改善という仕事をしているといろんなケースに遭遇するのだが、「あわて者」は、目先が利くので現象に振り回されて、本当の原因を突き止めずに対応して、段々、悪くする悪循環に陥るのだ。逆に、「うっかり者」の場合、実際にトラブルの気配があっても気づかずにドンドン経過して取り返しのつかないほどに問題を大きくする。何事もドンぴしゃり(just in time)が良いのだという教えである。図式にすると



という感じである。

この「あわて者の誤り、うっかり者の誤り」は、「物づくり」の現場に限らず、「人」そのものの問題として普遍的な課題である。「あわて者」という人は、どちらかと言うと頭の回転が速い法なので、先を見る傾向がある。私は、13年前に船井総研で「客員経営コンサルタント」の勉強をしたのだが、その仲間たちは、やはり「先」の見える人ばかりであった。私と同じように独立した人も数年も我慢できずに、転業した人が多かった。同じように、船井総研にいたコンサルタントたちも数多く辞めている。「人生一路」という言葉があるが、可能な限り進路を変えない方が良いのは、分かりきったことである。「事業」を志して、少し「カベ」にぶつかったとしても、そこで、先を読むというのでは「うっかり者」以前の問題である。自分が「光る」ためには、経験を積んで「磨く」ことが重要であり、そのためには、「不撓不屈」の精神で困難を乗り越える覚悟がいる。

ところが、コンサルタントを志すような人が、普通の人(表現がまずいかも知れないが)と同じように、あっさりと「道」を見切るのである。有能な人だから、次の道を切り開くことが出来るとも言えるが、私には、人にアドバイスする仕事を選んだ人には、もう少し、耐えて欲しいのだ。

また、一般的には、お客様の会社でも中途採用するのだが、結構、転々と職を変えている人がいるのに驚く。そんな場合、相談があれば、幾ら人材と言えども、私は「ノー」とアドバイスしている。「不撓不屈」は「ふとうふくつ」と読むのだが、「どんな困難にあっても決して心がくじけない」という意味である。転々とする人に、そんな根性がないのは、すぐに伺えるからだ。

しかし、現実には、サラリーマン人生を定年まで「一社」で「貫き通す」ということは、難しいものである。かく言う私も、サラリーマン生活は、23年間であった。ある意味「人生一路」を貫くために「職」を選んだ心算でいる。その選んだ「コンサル業」で12年のキャリアになって来た。今では、「天職」という確信をもっている。

「美しい国」づくりと安倍首相は掲げているが、その「始元」になるものを一つ選ぶならば、「不撓不屈」も候補に入ると思う。「青い鳥シンドローム」は死語化しているが、現実には、そんな若者が多くいる。「こんな筈ではない」と自問自答するのは当然と思うが、そんな若い人にアドバイスするとすれば、「あわて者になるな！」と強く言いたい。甘やかされて育った方が多くなっているが、「幸せ」と「我慢」は必ず、併せ持っていることを教えたい。「我慢」できない人が多いのだ。「人生、万事塞翁が馬」なのだ。悪い時ばかりではないという事を教えたい。